

国分寺市の基幹相談支援センターとともに



野村 拓夢

国分寺市社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター担当



日頃より地域福祉コーディネーターの取組ならびに重層的支援体制整備事業（以下、重層事業）にご協力いただき感謝申し上げます。

重層事業は、地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制整備の手段として創設されました。複雑化・複合化したニーズなどに対して、地域住民や支援関係機関など多機関が協働しながら、「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施します。

この度は、ネットワーク研修Ⅱ（高齢福祉・障害福祉）において「多機関による協働」をテーマに、重層事業を通して支援関係機関の皆さんと学びを深めました。多機関による協働は、日頃から支援者同士の顔の見える関係づくりと、互いに相談・連携しやすい体制が大切だと考えています。

国分寺市では、ネットワーク研修や自立支援協議会など、皆さまのご尽力によって支援体制づくりが進んでいると、日々の相談支援を通じて実感しています。これからも支援者としてさまざまな課題や悩みと直面すると思いますが、分野を超え、手を取り合って共に頑張っていきたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

渡部 納

国分寺市健康部地域共生課
重層的支援体制整備担当係長



日頃より地域福祉の推進にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

本市では、令和5年度から属性を問わない相談支援、多様な社会参加に向けた支援、地域づくりに向けた支援を一体的に行い、包括的な支援体制を構築する重層的支援体制整備事業を本格実施しています。

この度、ネットワーク研修Ⅱにおいて、本事業を活用し、障害分野と高齢分野が連携して支援を進めてきた世帯事例を取り上げていただきました。複雑化・複合化した課題を抱える世帯への支援は、支援関係機関間の連携によるチーム支援が欠かせません。支援者間の押し付け合いではなく、助け合いが必要であると考えています。また、地域で気になる世帯があれば、支援会議を開催し、支援関係機関間で速やかに情報共有し、早期発見・予防的支援を行うことも重要です。

本事業を通じて、支援関係機関や地域の皆さまと共に、社会的孤立や制度の狭間の問題などについて地域全体で支え合う体制を構築し、誰ひとり取り残さずに住み慣れた地域でこれからも安心して暮らし続けられる地域共生社会の実現を目指してまいります。

石井 廣子

弁護士法人ひまわりパートナーズ
八王子ひまわり法律事務所 弁護士



国分寺市の関係機関の皆さまが地域移行に向けて先端的な取組をされており、敬服しております。

国分寺市障害者地域自立支援協議会の委員を務めている関係で研修の講師を仰せつかり、令和7年9月1日、「権利擁護のための意思決定支援」というテーマで講演をさせていただきました。支援を受ける人々を「保護の客体」から「権利の主体」へと捉え直す潮流の中、いかにして意思の決定を支援していくかは大きなテーマになっていくと考えられます。とてもタイムリーな内容の研修であり、素晴らしい取組であると思います。

国分寺市の自立支援協議会では、令和8年度以降、施設入所者や精神科病院に長期入院している方を対象に地域移行ニーズ調査を実施予定であると聞いています。ニーズ調査は、当事者が真に望んでいることを実現していくための大切な第一歩となると考えます。二歩目として、いつどのようなステップで地域移行していきたいのか、その決定をするために、皆さまの意思決定支援が必要になります。

今自分が行っている意思決定支援はどの階層に位置づいているのか、どのような手段をとるのが適切なのかを考える際、研修がお役に立てることを期待しております。

毛塚 和英

社会福祉法人はらからの家福祉会
地域生活支援センタープラッツ 所長



日頃より市内の精神保健福祉の推進にご尽力いただいていることに、心から敬意を表します。

国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会では、事務局として基幹相談支援センターが関係機関をつなぎながら、精神障害のある方が地域の中で暮らし続けられる地域づくりを目指し、課題共有や支援のあり方について協議を重ねてきました。

今もなお、精神科病院への長期入院は大きな課題であり、入院している方が地域へ戻っていくための環境づくりは重要なテーマです。地域で暮らしている方だけでなく、現在も入院している市民を取りこぼさない地域でありたい—その思いを共有しながら、何ができるのかを考えてきました。

令和7年度は自立支援協議会の年間テーマを踏まえ、「精神科病院からの地域移行」を取組の中心に掲げ、根岸病院と連携した社会資源ツアーや意見交換を実施しました。医療と地域が率直に意見を交わす取組を実現できたのは、これまで基幹相談支援センターが丁寧に果たしてきた関係機関との関係性があったからこそだと感じています。

精神科病院から地域へ戻る道筋を地域の責任として支えていくためにも、医療と地域の対話を積み重ね、精神障害のある方が地域の一員として暮らし続けられる社会の実現に向けた取組が今後も広がっていくことを期待しています。

「国分寺市障害者基幹相談支援センター Annual Report(アニュアル・レポート)2025」

令和8年（2026年）5月29日発行

社会福祉法人 万葉の里 国分寺市障害者基幹相談支援センター

〒185-0002 東京都国分寺市東戸倉2-7-26 KOCO・ジャム

電話：042-320-1300 FAX：042-313-8823 <https://kokubunji-kikan-towaple.com/>



*この冊子は、環境に優しい
原材料を使用しています。

印刷：社会福祉法人 東京コロニー